

山桜の里 戸赤

花豆パイ なども人気

南会津地方地域産業6次化商品求評会に参加



豆花 栽培講習会



商品力の強い地域産品を創出するため、「南会津地方地域産業6次化商品求評会」が二月十日御蔵入交流館で開催され、戸赤から榎おくやさんと室井静江さんの試作品が展示されました。おくやさんは、白アンに花豆をまるごと入れ、ハイ生地地で包み焼きあげた「花まめパイ」。

花豆をチョコで包んで、香ばしくローストしたじゅうねんをまぶした「花まめショコラ」。

昔ながらの手作りでじっくり丁寧に仕上げた「花まめ甘納豆」三品種。室井さんはゆづくり時間をかけて炊き



会津短大生による食用ほおずきのパッケージデザインの発表や講演の後試食会



「味、商品としての見た目、パッケージ、価格、買いたいと思うか」などアンケートに記入

花豆ロールケーキ



短期大学の協力も得て、南会津農林事務所の主催でした。花豆のほか食用ほおずき、エゴマ、トマトを素材とした二十

こんだ花豆を刻み、生クリームにふんだんに入れた「花豆ロール」を出展しました。三名のアドバイザーからの講評を始める



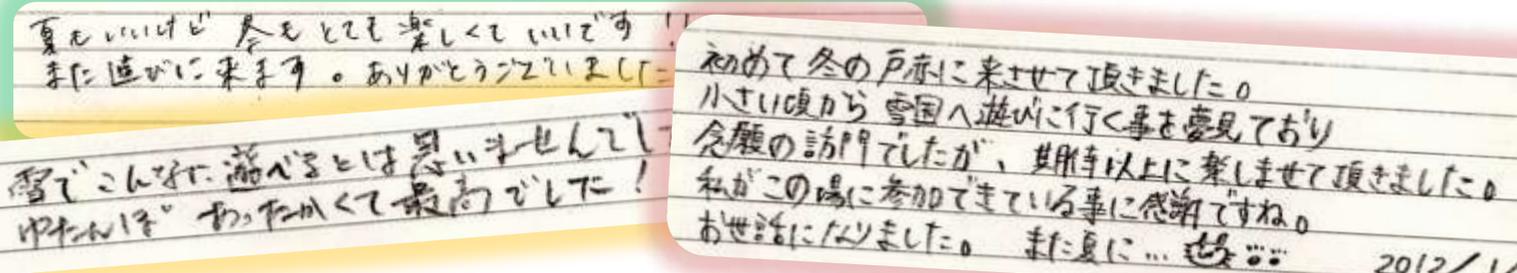
花豆ショコラ



花豆パイ

※地域産業6次化とは：農林水産資源を基盤として、第1次、第2、第3次の産業分野において、多様な主体が自らの強みを生かして他産業にも分野を拡大し、又は相互に連携融合しながら、付加価値を向上、創造する取り組み

「やまざくら学校の宿泊感想ノートから」



【木地の学習No.16】「伊勢参宮道中記」解題の中で橋本鉄男は次のように述べている。「所要日数は、嘉永三(1850)年1月が21日、2月が28日、3月が17日で、前後を通算すると実に66日間を経過している。日によって行旅の里程も増減があるが、平均して30キロないし40キロとほとんどコンスタントな健脚ぶりである。当時交通の開けた東海道を上るにも片道20日余りを要したといわれたから、それに比してもその行動範囲の広さと距離とさらに道中の厳しさを考えると、これまた全くこの部族特有のエネルギーな大旅行であったといえる。」まさにきじしの面目躍如たるものがある。原本の表題は『伊勢参宮道中記』と記してあるが、一番の目的は伊勢参宮よりも別のところにあったと思われる。職の縁起、繪旨、宗旨手形、印鑑等いわゆる「木地師文書」を授けたのは近江の根本地であった。その地を彼らは水上(みなかみ)あるいは本山(ほんざん)と呼び一生に一度は参詣すべきところとされていた。従ってこの道中記は「伊勢参宮」に名前を借りたもので、本来ならば「水上詣道中記」とでも呼ぶべきものであろう。奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より(つづく)

福島県地域づくり総合支援事業(地域協働モデル支援事業)に申請

水車発電で情報発信

「山桜街道
地域活性化ネットワーク」

補助事業が認められれば



2月12日戸赤集会所雪下ろし

戸赤を中核として水車式発電の電光看板から地域の情報をホームページなどで外部発信、挿し木による増殖とオーナー制導入で山桜の維持拡大、自然探索会で被写体発掘と風景写真コンテストなどで地域活性化を図ることを目的とした事業を、町を含めた七団体は「山桜街道地域活性化ネットワーク」の協議体を組織し申請しました。

福島県地域づくり総合支援事業(地域協働モデル支援事業)の地域活動団体等支援重点化枠の申請者となった下郷町及び、下郷町商工会、下郷町森林組合、下郷町地域振興株式会社、高倉以仁王の道ネットワーク、会津風景写真家連盟、戸赤村づくり実行委員会は、第四次下郷町振興計画に掲げている河川流域に沿った集落整備をこの事業で実践し、人材育成や組織の基盤強化を図り、地域振興のための施策を行政とともに民間団体が協議体を組織して取り組む新しい公共のさきがけとなるものです。事業の採択は審査会の選考等を経て四月以降に決まります。申請した対象事業費は六百二十六万三千円で補助率は十分の十です。

業で実践し、人材育成や組織の基盤強化を図り、地域振興のための施策を行政とともに民間団体が協議体を組織して取り組む新しい公共のさきがけとなるものです。事業の採択は審査会の選考等を経て四月以降に決まります。申請した対象事業費は六百二十六万三千円で補助率は十分の十です。



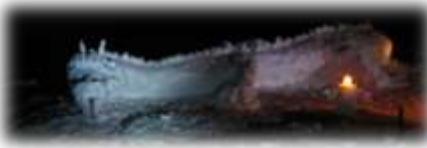
二月十三日「山桜街道地域活性化ネットワーク」は下郷町、下郷町商工会、下郷町森林組合、下郷町地域振興株式会社、高倉以仁王の道ネットワーク、会津風景写真家連盟、戸赤村づくり実行委員会の七団体により組織された



雪・月・火
が贈る

幻想世界

「雪・月・火」は2月18日、なかやま雪月火実行委員会により2012本のローソクに灯がともされ、澄んだ空気にソプラノの唄声が響き渡るなど、心が



洗われる幻想的な雰囲気をかもしだし、首都圏からのバスツアー40人は都会では信じられない体験ができたと感じいっぱいでした。下郷町商工会青年部、下郷町観光公社の屋台店も並び、休憩所テントの特設ステージ、榎小のハンドベルなどとともに多彩な催しが繰り広げられました。

倉水では長寿の水付近に今年の干支である「龍」の雪像をつくり応援(左)



(花豆の学習[No.15]) ◎側枝の整理、摘心、追肥、樹上乾燥の原理と効果 ③追肥 開花盛期に根本に追肥を行い、登熟期の樹勢維持を図る。・開花期には大きなエネルギーを使う→肥料の消耗→開花盛期(7月下旬頃) 樹勢を見ながら追肥→花も樹勢も維持 ④樹上乾燥 9月下旬頃、茎を地際で切断し、転流と乾燥を促進する。・気温の低下で光合成低下→サヤも充実しない→地際部で切断→茎葉に含まれる養分がサヤに流れてサヤの成熟を促進→サヤの黄化を早める→収穫が早くなる→増収 (南会津農林事務所農業振興普及部資料から) (つづく)

2011年気象経過 (田島アメダス)

